

☑ 防災 × 男女共同参画 の視点

まずは、一人の人がすべての立場の人を想像・理解することは難しいという認識を持ちましょう。

防災訓練

- ☐ 役割を性別で固定化していませんか。
 - ・男性が炊事、女性がテント張り等、役割を交換してみよう
 - ・得意分野を活かした配置にしてみよう
- ☐ 多様なニーズに応じた訓練を実施していますか。
 - ・女性や子ども、若者、高齢者、障害者等様々な人が参加できる工夫をしよう
 - ・地域の女性団体、市民団体、学校、保育所、企業等と連携して実施しよう
 - ・平日昼間、夜間、休日等様々な条件を想定して実施しよう

防災備蓄品

- ☐ 多様なニーズに沿った備蓄品になっていますか。
 - ・女性用品、乳幼児用品、介護用品等も準備しよう
 - ・誰もが使いやすい防災資機材を用意しよう
- ☐ 支援物資が個人に行き届いていますか。
 - ・男女両方の物資担当者を配置しよう
 - ・子どもや障害者、高齢者等へ必要な物資がきちんと届く工夫をしよう

避難所運営

- ☐ 多様なニーズを把握できる体制になっていますか。
 - ・避難所の責任者、運営メンバーは性別に偏りなく配置しよう
 - ・受付でニーズを把握する配慮をしよう(性的マイノリティ、DV被害者等)
- ☐ 様々な人に配慮した避難所レイアウトになっていますか。
 - ・プライバシーの確保できるスペースや乳幼児のいる家庭用エリア等を設置しよう
 - ・個人で使えるトイレや更衣室、シャワー室等を設置しよう

地域の備え

- ☐ 地域の活動に、男性も女性もあらゆる人材が参画していますか。
 - ・防災活動に女性等あらゆる人材の参画を促進しよう
 - ・地域の自治組織に、女性リーダーも増やそう
- ☐ 日頃からの地域のネットワークを大切にしていますか。
 - ・災害時にスムーズな支援活動を行うために、積極的にコミュニケーションを図ろう

地域の防災力

石巻市
男×女
共同参画

男女共同参画の視点

※男女共同参画社会とは・・・「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。



みんなで地域の防災対策

～男女共同参画で減災のまちづくり

どうして女性の参画や、男女共同参画の視点が必要？

地域には、男性、女性、子ども、高齢者等様々な方が住んでいます。

それぞれの立場が違えば、暮らしの中で必要な環境、物資、サービスが違ってきます。それぞれの立場が違えば、物事の捉え方、観点、考え方、感じ方が違ってきます。

災害時には、年齢や性別だけでなく、健康状態や家庭環境、生活状況など、一人ひとり異なる事情があります。見えやすい違いだけでなく、気づきにくい・見えにくい多様性にも目を向け、一人ひとりに寄り添った支援につなげることが大切です。



被災者一人ひとりの多様性

災害時には、年齢や性別、見た目だけでは分からないさまざまな事情や困りごとがあります。
一人ひとりの**多様性を理解し、必要な配慮や支援につなげる**ことが、安心して暮らせる地域づくりにつながります。

この取組は、SDGsの目標達成につながります



見えやすい多様性

(外見や状況から分かりやすい特徴)

● 女性

治安の悪化により、性暴力やハラスメントの被害者になりやすい。プライバシーのない共同生活や衛生環境によりストレスを感じやすい。

● 男性

過重労働に陥りやすい。気持ちを表に出せず、飲酒量の増加や孤立につながりやすい。

● 乳幼児・小中高生(学生)

乳幼児は、免疫力が未熟で、脱水症状やおむつかぶれ等衛生環境への配慮が必要。また、学生は要配慮者を優先するあまり、自分は後回しと感じ、要望を伝えられない。

● 妊産婦

母子共に、常に高いリスクと隣り合わせ。慣れない育児と環境の変化でうつ状態になりやすい。

● 高齢者

素早い行動をとるのが難しく、避難行動が困難。周囲とコミュニケーションを図るのが難しく、助けの把握が遅れやすい。

● 外国語を母国語とする人

難しい日本語はわからず、避難行動や避難生活に困難を抱えやすい。

気づきにくい多様性

(見た目では分かりにくい、配慮が必要な特徴)

● 障害者

障害の種類や程度によって、移動、情報の入手や発信、避難生活に様々な形で課題を複合的に抱えやすい。

● ケア役割を担う人

発達障害の子どもを持つ方や介護を必要とする家族をもつ方等、生活環境の配慮が必要。

● 持病のある人

様々な病気がある中で、その症状と程度には幅がある。薬の不足や衛生環境等で症状が悪化しやすい。

● 性的マイノリティ

性自認や性別表現と、公的な身分証や身体の性が異なる場合があるため、共同生活を前提とした避難生活に困難を抱えやすい。また、カミングアウトをしていない方には別途配慮が必要。

見えにくい多様性

(外見や背景からはほとんど分からない特徴)

● 被災状況の違い

被災状況はそれぞれ異なるため、それに伴い求められる救済措置・支援も異なる。

● 仕事の有無・収入の状況

災害の影響により失業する方等不安材料の一つ。また、家族に要配慮者がいる場合には、ケア役割が女性に偏りがちで、女性の職場復帰が遅れやすい。

● DV被害者

避難所で探されて、危険な状況に陥りやすい。また、生活環境等の変化によりストレスが増え、あらゆる暴力の発生リスク高まる。

● 家族構成・家庭の状況

災害の影響により、家族構成の変化が生じることがある。(義父母との同居、夫婦関係の変化など)

配慮すべきポイント

- 必要な支援や情報が届くよう、分かりやすく、丁寧に対応しましょう。
- 固定的な思い込みをなくし、一人ひとりの状況に寄り添いましょう。
- トイレ、更衣室、授乳室など、安心して利用できる環境を整えましょう。



配慮すべきポイント

- 本人からの申出がなくても、さりげなく気づき、声をかけましょう。
- 必要な情報や支援につながるよう、相談しやすい雰囲気をつくりましょう。
- 特性に応じた環境整備や支援方法を工夫しましょう。



配慮すべきポイント

- 一人ひとりの背景や事情を想像し、必要な支援につなぎましょう。
- 安易に詮索せず、プライバシーを尊重しましょう。
- 長期的な支援や見守りが必要な人がいることを意識しましょう。

